

平成29年度

全国学力・学習状況調査結果について

—川崎市の児童生徒の学習・生活の状況—

平成 29 年度 全国学力・学習状況調査結果について

— 川崎市の児童生徒の学習・生活の状況 —

○調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○調査の実施状況

小学校 113 校 中学校 52 校
 小学校 第 6 学年 約 11,280 名
 中学校 第 3 学年 約 9,240 名
 ※ 調査の種類により調査人数は若干変動

○児童生徒に対する調査

〈教科に関する調査〉

小学校調査 - 国語・算数 中学校調査 - 国語・数学

主として「知識」に関する問題

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

主として「活用」に関する問題

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

〈質問紙調査〉

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

1 教科に関する調査の平均正答数（問）と平均正答率（％）

	小学校調査								中学校調査							
	国語				算数				国語				数学			
	A(15問)		B(9問)		A(15問)		B(11問)		A(32問)		B(9問)		A(36問)		B(15問)	
正答数 問	正答率 %	正答数 問	正答率 %	正答数 問	正答率 %	正答数 問	正答率 %	正答数 問	正答率 %	正答数 問	正答率 %	正答数 問	正答率 %	正答数 問	正答率 %	
川崎市	11.3	75	5.4	60	12.0	80	5.5	50	24.9	78	6.6	73	23.2	65	7.3	49
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46	24.8	77	6.5	72	23.3	65	7.2	48
差	0.1	0	0.2	2	0.2	1	0.4	4	0.1	1	0.1	1	-0.1	0	0.1	1

*知識(A)：主として「知識」に関する問題 活用(B)：主として「活用」に関する問題

2 全体の傾向

本市においては、上記 1 のいずれの項目の平均正答率も全国に対して±5ポイントの範囲内にある。これは文部科学省が有意差の認められないとする範囲内であるので、本市の結果は全国とほぼ同程度の結果であるといえる。

① 教科に関する調査

「教科に関する調査」の校種、教科ごとの概要は以下に示す通りである。

全体の傾向については、領域、設問ごとに川崎市の正答率と全国とを比較して、「△」「▼」印を付けている。（△＝上回った設問 ▼＝下回った設問）

結果の概要については、領域ごとに個々の設問について特徴的なものを取り上げて、「◇」「◆」印を付けている。（◇：よい状況と考えられる問題 ◆：課題があると考えられる問題）

問題については、A・Bで表記している。（A…A問題、B…B問題）

小学校 国語

○調査問題の趣旨・内容

国語A－基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

- (例) ■ 互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合う。
■ 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く。
■ 目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読む。
■ 俳句の情景を捉える
■ ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる。

国語B－基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

- (例) ■ 目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す。
■ 目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く。
■ 自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える。
■ 物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる。

○全体の傾向

・領域等ごとの傾向

領域等ごとの平均正答率は、話すこと・聞くことではA72%、B67%、書くことではA63%、B55%、読むことではA73%、B52%、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ではA77%、である。伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項のAにおいて全国を下回り、他は全国を上回った。いずれも全国との差は±5ポイントの範囲内である。

・設問ごとの傾向

Aでは全15問中10問で全国を上回り、Bでは全9問で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上である設問は以下の通りである。

- △B3二 物語を読んだあとの話合いにおける発言の意図として、適切なものを選択する (34%、+6)
- ▼A7(2) 漢字を書く 4年生のきぼう者(74%、-6)
(3) 漢字を書く 箱がおいてあり(72%、-5)

○領域等ごとの結果の概要

話すこと・聞くこと

- ◇(B1一) スピーチの練習の様子を記録した動画を見る目的として適切なものを選ぶ設問において、目的や意図に応じて適切な言葉遣いで話すことについては、相当数の児童ができています。(80%)
- ◆(B1三) 折り紙の魅力について、スピーチメモとグループの話合いで出された意見を基に書く設問において、目的や意図に応じて話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話すことについては、課題がある。(49%)

書くこと

- ◇(A 2一) お礼の気持ちを伝えるためにどのような内容を書いているのか、書かれている内容の説明として適切なものを選ぶ設問において、目的や意図に応じて内容の中心を明確にして書くことについては、相当数の児童ができています。(81%)
- ◆(B 2三) 「水やりに協力してくれる人をぼ集めます」というポスターの一部に入る内容を、中学生からのアドバイスを基に書く設問において、目的や意図に応じて必要な内容を整理して書くことについては、課題がある。(35%)

読むこと

- ◇(A 4一) 俳句の情景について考えたこととして適切なものを選ぶ設問において、俳句の情景を捉えることについては、相当数の児童ができています。(81%)
- ◆(B 3二) 物語を読んだあとの話合いにおける発言の意図として、適切なものを選ぶ設問において、自分の考えを広げたり深めたりするための発言を捉えることについては、課題がある。(34%)
- ◆(B 3三) 物語から取り上げた言葉や文を基に登場人物がきつねだと考えたわけをまとめる設問において、具体的な記述を基に、理由を明確にして自分の考えを整理し形成することについては、課題がある。(45%)

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ◇(A 5) ことわざの使い方の例として適切なものを選ぶ設問において、ことわざの意味を理解して表現に用いることについては、相当数の児童ができています。
ア 三度目の正直 (90%) イ もちはもち屋 (84%)
- ◆(A 7) 漢字を書く設問において、学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くことについては、課題がある。(1)参加たいしょう (43%)

○授業改善に向けて

話すこと・聞くこと ○目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように話す指導の充実

自分の考えが伝わるように話すには、構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで話すことが必要である。そのためには、児童が自分の表現を振り返ることができるようICT機器を活用したり、交流を通して自分の話の内容や話し方を見直すことができるような活動をしたりしながら、目的や意図に応じて、適切な表現で話すことができるよう指導することが大切である。

書くこと ○目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く指導の充実

読み手に自分の考えが伝わるような文章を書くためには、目的や意図に応じ、取材した情報から必要な内容を整理することが重要である。情報と情報との共通点や相違点に着目してまとめる活動や、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりする活動等を通して、必要な内容を整理し、明確に伝えることができるよう指導することが大切である。

読むこと ○物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる指導の充実

叙述を基に考えをまとめる際、その叙述を見付けるためには、場面の展開に沿って、登場人物の言動や心情の変化を捉えて読む必要がある。一つの場面の叙述だけを対象とするにとどまらず、複数の場面の叙述を相互に関係付けながら読んだり、感想を記入したノート等を活用しながら、どの叙述に着目したかを明確にしたりできるような指導をすることが大切である。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ○漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中で適切に漢字を使う指導の充実

児童が、各教科等や日常生活で使用する文や文章の中で適切に使うことができるようにすることが重要である。そのためには、字形に注意しながら繰り返し練習することのみならず、漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中で適切に使うことができるような学習活動の設定等を工夫し、指導していくことが重要である。

○調査問題の趣旨・内容

算数A－基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

- (例) ■ 1より小さい小数をかける乗法の問題場面を理解し、それぞれの数量が数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ。
- 任意単位による測定を基に比較しているものを選ぶ。
 - 正五角形をかくとき、円の中心のまわりの角を何度ずつに分割すればよいかを書く。
 - 二次元表の合計欄に入る数を書く。

算数B－基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

- (例) ■ 二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述する。
- 料金の差を求めるために、資料から必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する。
 - 示された式の中の数の意味を、表と関連付けながら解釈し、それを記述する。
 - 身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述する。

○全体の傾向

・領域ごとの傾向

領域ごとの平均正答率は、数と計算ではA82%、B58%、量と測定ではA74%、B48%、図形ではA80%、B19%、数量関係ではA80%、B44%である。図形のBにおいて全国を下回り、他は全国を上回った。いずれも全国との差は±5ポイントの範囲内である。

・設問ごとの傾向

Aでは全15問中10問で全国を上回り、Bでは全11問中10問で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上である設問は以下の通りである。

- △B 1 (3) 2けたのひき算の答えを求めることができるきまりを書く(45%、+6)
- △B 2 (1) 小さい封筒の場合と大きい封筒の場合の、料金の答えと求め方を書く(45%、+5)
- △B 2 (2) 用紙の長い辺を3等分するのは、何本目の直線と交わった場合を書く(34%、+7)
- △B 4 (1) 示された式の中の数が表す意味を書き、その数がどこに入るのかを選ぶ(46%、+6)
- △B 5 (2) 割合の関係を捉え、条件に合う硬貨を選び、選んだわけを書く(19%、+6)

○領域ごとの結果の概要

数と計算

- ◇A 1 (3) 60×0.4 を、 60×4 を基にして考えるとき、正しい積の求め方を選ぶ設問において、乗法の性質を理解することは、相当数の児童ができています。(92%)
- ◆B 1 (3) 2けたのひき算の答えを求めることができるきまりを書く設問において、示された二つの数量の関係を捉え、そのきまりを指定された言葉を使って記述することについては、課題がある。(45%)

量と測定

- ◆B 3 (2) 仮の平均の考え方を活用して、測定値の平均を求める設問において、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述することについては、課題がある。(24%)

図形

- ◇A 7 立方体の展開図から、示された面と平行な面を選ぶ設問において、面と面の位置関係を理解することは、相当数の児童ができています。(86%)

数量関係

- ◇A 8 はじめに持っていたシールの枚数を□枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ設問において、未知の数量を表す□を用いて除法の式に表すことは、相当数の児童ができています。(87%)
- ◆B 4 (1) 示された式の数が表す意味を書き、その数が表のどこに入るのかを選ぶ設問において、示された数の意味を、表と関連付けながら解釈し、そのことを記述することについては、課題がある。(46%)

○授業改善に向けて

数と計算

○日常生活の問題の解決のために、必要な情報を選択したり、示された方法を数学的に解釈し、問題場面に適用できるか考察し判断したりする指導の充実

日常生活の問題の解決のために、必要な情報を収集した上で条件に合うものを選択したり、示された方法を数理的に捉えて数学的な意味を見だし、問題場面に適用できるか考察し判断できるようにしたりすることが大切である。また、問題の解決のために用いた方法を、日常生活の場面に戻って振り返ることで、算数が役立っていることを実感できるようにすることも大切である。

量と測定

○日常生活の問題の解決のために、データを処理する方法を適切に用いて判断したり、工夫してデータを処理するよさを実感したりすることができるようにする指導の充実

実験結果の測定値としていくつかの数量があったとき、それらの数量の平均を求めることでより妥当な数値が得られる場合がある。その際、飛び離れた数値や予想外の数値があった場合に、場面や状況によっては、それらの数値を除き、目的に応じた平均を求めることができるようにすることが大切である。また、平均がおよそどのくらいになるのかを見積もったり、基準を変えて計算することで、測定値の平均を工夫して求めるよさを実感できるようにしたりすることも大切である。

図形

○図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、立体図形の平面上での表現や構成の仕方を考察する指導の充実

立体図形と見取図、展開図を関連付け、構成要素やそれらの位置関係に着目して、立体図形の構成の仕方を適切に捉えることができるようにすることが大切である。立方体や直方体などの立体図形の学習では、向かい合う面が平行になることや、隣り合う面が垂直になることを、具体物の観察や操作を通して実感的に理解できるようにすることが大切である。

数量関係

○日常生活の事象を、割合や表、グラフなどを活用して考察する指導の充実

日常生活の中には、算数で学習した内容を基に数理的に処理し合理的に判断する場面がある。日常生活の事象を、児童にとってより身近なものなどに置き換え、割合を活用して考察したり、表や図、グラフに表して捉え、そこから見いだすことができる特徴や傾向を基に考察したりすることが大切である。

○調査問題の趣旨・内容

国語A－ 基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

- (例) ■ スピーチをより分かりやすくするためにイラストを提示する箇所として適切なものを選択する。
- それまでがんばってきた様子が読み手に伝わるように書き直す。
- 見出しの内容に対するまとめとして適切なものを選択する。
- 「徒然草」の中の語句の訳を抜き出す。

国語B－ 基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

- (例) ■ 比喩を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く。
- スピーチの内容を聞き手からの意見に基づいて直す。
- アンケートをとる対象と質問内容、その質問についての回答を基にした内容載せることで興味をもってもらえると考えた理由を書く。

○全体の傾向

・領域等ごとの傾向

領域等ごとの平均正答率は、話すこと・聞くことではA76%、B74%、書くことではA86%、B63%、読むことではA76%、B72%、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ではA77%、B43%である。伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項のAと、読むことのBにおいて全国を下回り、他は全国を上回った。いずれも全国との差は±5ポイントの範囲内である。

・設問ごとの傾向

Aでは全32問中26問で全国を上回り、Bでは全9問中8問で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上あった設問は以下の通りである。

- ▼A9-1 漢字を書く 組織のキボを大きくする (57%、-6)
- ▼A9-2 漢字を書く 雨で運動会がエンキになる (56%、-7)
- ▼A9-3 漢字を書く 店をイトナむ (78%、-7)

○領域等ごとの結果の概要

話すこと・聞くこと

- ◇(A2-1) 「それまで頑張ってきた様子」が読み手により伝わるように書き直す設問において、書いた文章を読み返し語句の使い方を工夫して書くことについては、相当数の生徒ができています。(88%)
- ◆(B2-3) スピーチの内容を、聞き手からの意見に基づいて直す設問において、相手の反応を踏まえながら、事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫することについては、課題がある。(59%)

書くこと

- ◇(A5-1) 生徒会だよりの《立候補者から》の欄の書き方を説明したものとして適切なものを、選ぶ設問において、文章の構成を工夫してわかりやすく書くことについては、相当数の生徒ができています。(82%)
- ◆(B2-3) スピーチの内容を、聞き手からの意見に基づいて直す設問において、相手の反応を踏まえながら、事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫することについては、課題がある。(59%)
- ◆(B1-3) 比喩を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く設問において、表現の仕方について捉え、自分の考えを書くことについては、課題がある。(43%)

読むこと

- ◇(B 1 一) 本の紹介カードに書かれている登場人物の様子が、具体的に表現されている箇所として適切なものを選ぶ設問において、登場人物の言動の意味を考え、内容を理解することについては、相当数の生徒ができています。(84%)
- ◆(B 1 三) 比喩を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く設問において、表現の仕方について捉えて書くことについては、課題がある。(43%)

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ◇(A 9 三) 適切な語句を選択する設問において、語句の意味を理解し文脈の中で適切に使うことについては、相当数の生徒ができています。
ア えりを正す(80%) ウ ご利用になる(87%) エ ただし(96%) オ 確信する(95%)
- ◆(A 9 一) 漢字を書く設問において、文脈に即して漢字を正しく書くことについては、課題がある。
1 組織のキボ(57%) 2 運動会がエンキになる(56%)

○授業改善に向けて

話すこと・聞くこと

○相手や場を意識して話す指導の工夫

スピーチをする際には、自分の伝えたい内容が十分に伝わる内容や表現の仕方になっているかを考え、場の状況や聞き手の様子に応じて話す必要がある。自分のスピーチを振り返り、話し手と聞き手の両方の立場から検討したり交流したりする活動等を通して、より分かりやすい内容や表現の仕方では話すことができるように指導していくことが大切である。

書くこと

○文章の表現の仕方について捉え、自分の考えを書く指導の工夫

表現について自分の考えを書くためには、文章を読んで感じたことや考えたことなどを具体的に説明したりすることができるようにする必要がある。文章を読み、なぜその場面や描写が印象に残ったのかを説明したり、まとめたりする活動等を通じて、自分が気付いた事柄を適切な言葉でまとめ、書くことができるように指導することが重要である。

読むこと

○文章の表現の仕方について捉える指導の工夫

文章の表現の仕方を捉えるには、様々な文章を読み、表現の特徴や方法、その効果等について考えをもつことが必要になる。文章を読み、表現の仕方や効果等について感じたことや気付いたことを交流するような活動を通し、今までの学習で身に付けた知識等を生かしながら、表現の豊かさに気づき、読み味わうことができるように指導することが大切である。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

○文脈に即して漢字を正しく書く指導の工夫

文脈に即して漢字を書く指導においては、字形や音訓、意味や用法等の知識を習得するとともに、文脈の中における言葉の意味や働き等を考えて漢字を書くように指導することが大切である。また、同音の漢字等の間違いやすい漢字について特に注意して用いたり、必要に応じて辞書を引く習慣を付けたりすること等の指導を継続的に行うことも必要である。

○調査問題の趣旨・内容

数学A－基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

- (例) ■ 一元一次方程式や連立二元一次方程式を解く。
 ■ 2直線に1直線が交わってできる角の位置について、正しい記述を選ぶ。
 ■ 比例のグラフから式を求める。二元一次方程式の解を表すグラフを選ぶ。
 ■ 与えられた資料から相対度数を求める。確率について、正しい記述を選ぶ。

数学B－基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

- (例) ■ 図形間の関係を図形の移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明する。
 ■ 六角形をn個作るのに必要なストローの本数を、 $6 + 5(n - 1)$ という式で求めることができる理由を説明する。
 ■ 与えられたデータを基に、貯水量が15000万 m^3 になるまでの日数を求める方法を説明する。
 ■ 分布の形に着目して2つの度数分布多角形を比較し、運動時間が420分以上の女子の方が体力テストの合計点が高い傾向にあるといえることの理由を説明する。

○全体の傾向

・領域ごとの傾向

領域ごとの平均正答率は、数と式ではA70%、B47%、図形ではA65%、B48%、関数ではA59%、B53%、資料の活用では、A59%、B49%である。数と式のA、図形のA、資料の活用Bにおいて全国を下回り、他は全国を上回った。いずれも全国との差は±5ポイントの範囲内である。

・設問ごとの傾向

Aでは全36問中15問で全国を上回り、Bでは全15問中9問で全国を上回った。全国との差が5ポイント以上である設問は以下の通りである。

- △A 5 (4) 円柱の体積を求める(57%、+5)
 △A 11 (2) 変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ(65%、+9)
 △B 3 (3) 与えられた式からaの変域に対応するbの変域を求める(49%、+5)
 ▼A 1 (3) $10 - 6 \div (-2)$ を計算する(70%、-6)
 ▼A 8 ある事柄について仮定をすべて書く(66%、-8)

○領域ごとの結果の概要

数と式

- ◇A 1 (4) 3月25日を基準にして3月23日を負の数で表す設問において、ある数量を正の数と負の数で表すことは、相当数の生徒ができています。(88%)
 ◆B 2 (2) 図に示された考え方をもとに、与えられた説明を完成させるために、当てはまる式を、nを用いて表す設問において、説明の筋道を読み取り、事象を数学的に表現することについては、課題がある。(45%)

図形

- ◇A 5 (2) 1回転させると円錐ができる平面図形として正しいものを選ぶ設問において、円錐が回転体としてどのように構成されているのか理解することについては、相当数の生徒ができています。(89%)
 ◆B 4 (3) 点EをBD=CEの関係を保ったまま動かすときに、指定された角の大きさについて正しい記述を選ぶ設問において、証明した事柄を用いて、新たな性質を見いだすことについては、課題がある。(43%)

関 数

- ◇ A10(1) 比例の関係を表す式に数を代入し、対応する値を求める設問において、与えられた比例の式について、 x の値に対応する y の値を求めることは、相当数の生徒ができている。(84%)
- ◆ B3(2) 与えられた表やグラフを用いて、ある貯水量になるまでに経過した日数を求める方法を説明する設問において、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することについては、課題がある。(21%)

資料の活用

- ◆ A14(1) 反復横とびの記録の範囲を求める設問において、範囲の意味を理解することについては、課題がある。(30%)
- ◆ B5(3) 「運動時間が420分以上の女子の方が体力テストの合計点が高い傾向にある」と主張できる理由を説明する設問において、資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することについては、課題がある。(19%)

○授業改善に向けて

数 と 式

○ 事象と式の対応を捉え、事柄が成り立つ理由を説明する活動の充実

事象を数学的に表現したり、数学的に表現された結果を事象に即して解釈したりすることを通して、事柄が成り立つ理由を筋道立てて説明することが大切である。さらに、事象を数学的に考察し直し、様々な式を見いだすとともに、見いだした式を基に事象について振り返る活動を取り入れることも大切である。

図 形

○ 見いだした事柄や事実について数学的に表現すべき部分を明確にして説明する活動の充実

図形に着目して見いだした事象の特徴を数学的に表現できるようにするために、前提とそれによって説明される結論の両方を数学的に表現する場面を設定することが大切である。その際、説明される結論が正しいものとなるようにするためには、前提となる条件が不足していないかどうかについて検討したり、振り返ったりする活動を重視することが大切である。

関 数

○ 事象の数学的な解釈に基づいて、問題解決の方法を数学的に説明する活動の充実

様々な問題を数学を活用して解決できるようにするために、問題解決の方法に焦点を当て、「用いるもの」と「使い方」を明確にして問題解決の方法を説明する活動を充実することが大切である。その際に、問題解決のために表した表・式・グラフをどのように用いればよいか説明し合う場面を設定し、検討する活動を充実させることが大切である。

資料の活用

○ 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する活動の充実

日常生活や社会における問題に対して、資料を用いて傾向を的確に捉え問題を解決できるようにするために、収集したデータを整理したグラフの形から分布の特徴を視覚的に捉えたり、代表値を求めて比較したりするなど、数学的な表現を用いて判断の理由を説明する活動を充実することが大切である。

② 学習や生活習慣などに関する児童生徒質問紙調査

「児童生徒質問紙調査」の概要は以下に示すとおりであるが、経年変化を見るために、小数点以下第一位までの数値で示している。特に記載ある場合を除き、数値には「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合も含めている。

また、全国の課題に対して±5ポイントの範囲は有意差が認められないとする範囲であり、ほぼ同程度として示す。

〈学習に対する関心・意欲・態度〉 国語

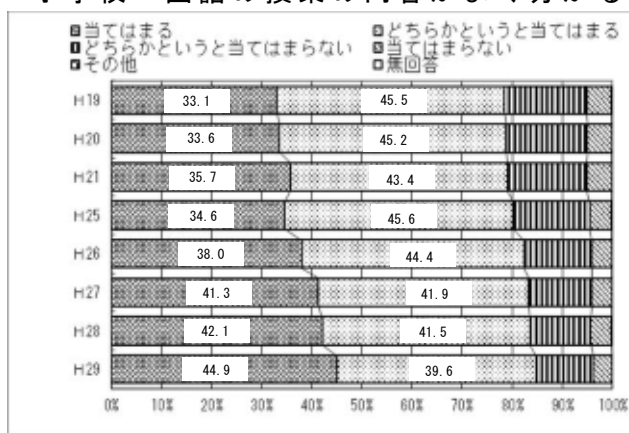
【小学校】

質問項目	H21	H28	H29	全国
国語の授業の内容がよく分かる。	79.1%	83.6%	84.5%	82.2%
国語の勉強は好き。	59.4%	61.6%	64.1%	60.5%
国語の勉強は大切だと思う。	90.6%	91.8%	91.6%	91.2%
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	82.6%	89.1%	88.0%	87.9%

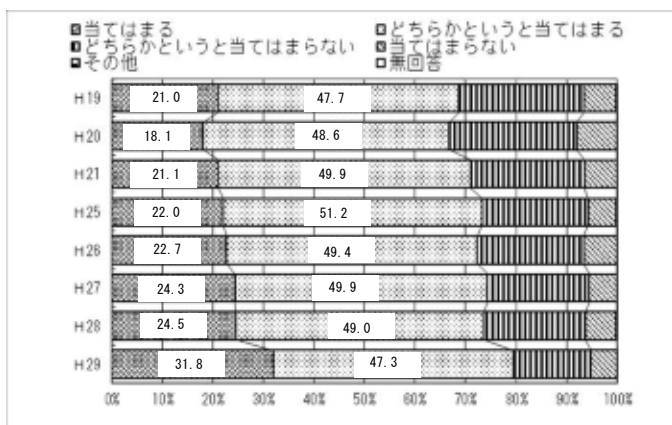
【中学校】

質問項目	H21	H28	H29	全国
国語の授業の内容がよく分かる。	70.9%	73.5%	79.1%	74.9%
国語の勉強は好き。	58.8%	60.8%	66.1%	60.5%
国語の勉強は大切だと思う。	88.3%	88.0%	89.2%	88.8%
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	78.9%	82.7%	83.6%	83.3%

小学校 国語の授業の内容がよく分かる



中学校 国語の授業の内容がよく分かる



全国と比較すると、これらの質問項目では、すべての項目で全国を上回った。特に中学校では、「国語の勉強は好き」と答えた生徒の割合が5.6ポイント上回っている。その他の質問項目については、いずれも全国との差は±5ポイントの範囲内である。

平成21年度と比較すると、小学校では、「国語の授業の内容がよく分かる」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」においてそれぞれ5.4ポイント高くなり、中学校では、「国語の授業の内容がよく分かる」において8.2ポイント、「国語の勉強は好き」において7.3ポイント高くなった。

「授業の内容がよく分かる。」において、平成19年度以降7年間の結果と比較すると、小学校でも中学校でも高くなっている。

今後も「わかる授業」の実現に向けて言語活動の充実や指導の工夫に取り組むことが重要である。また、それとともに、国語を学ぶ意義を児童生徒が理解し、より主体的に学べるように引き続き取り組む必要がある。

〈学習に対する関心・意欲・態度〉

算数・数学

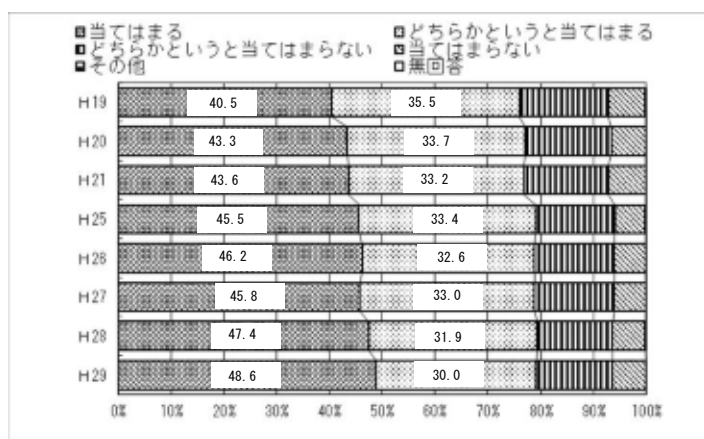
【小学校】

質問項目	H21	H28	H29	全国
算数の授業の内容がよく分かる。	78.9%	79.3%	78.6%	80.6%
算数の勉強は好き。	63.3%	66.1%	65.5%	65.9%
算数の勉強は大切だと思う。	91.9%	92.7%	91.7%	92.0%
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	86.1%	90.0%	88.3%	89.1%

【中学校】

質問項目	H21	H28	H29	全国
数学の授業の内容がよく分かる。	62.8%	69.8%	72.5%	69.4%
数学の勉強は好き。	51.2%	56.4%	59.2%	55.4%
数学の勉強は大切だと思う。	73.1%	78.0%	80.2%	81.1%
数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	59.1%	67.3%	68.6%	72.4%
数学ができるようになりたいと思う。	90.3%	90.7%	91.4%	91.2%

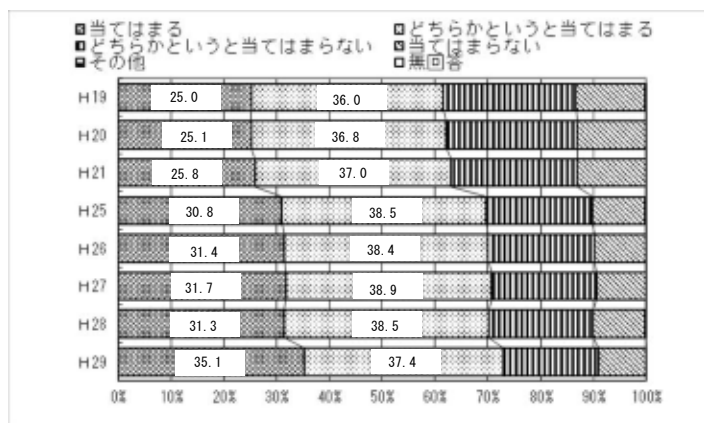
小学校 算数の授業の内容がよく分かる



全国と比較すると、これらの質問項目では、小学校では、すべての項目で全国を下回り、中学校では、「数学の授業の内容がよく分かる」、「数学の勉強は好き」、「数学ができるようになりたい」において全国を上回った。いずれも全国との差は±5ポイントの範囲内である。

平成21年度と比較すると、中学校では、「数学の授業の内容がよく分かる」において9.7ポイント、「数学の勉強は好き。」において8.0ポイント、「数学の勉強は大切だと思う。」において7.1ポイント、「社会に出たときに役に立つ。」において9.5ポイント高くなった。

中学校 数学の授業の内容がよく分かる



「授業の内容がよく分かる。」において、平成19年度以降7年間の結果と比較すると、小学校では、同程度の結果となっており、中学校では、平成25年度以降同程度の結果となった。

今後とも、小学校では「算数の勉強は大切だと思う」という児童の思いを、中学校では「数学ができるようになりたい」という生徒の思いを大切にしながら、教科を学ぶ意義を実感することができるような授業づくりを進めていく必要がある。

《挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等》

【小学校】

質問項目	H21	H28	H29	全国
自分にはよいところがあると思う。	70.5%	79.0%	79.9%	77.9%
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。	69.5%	78.0%	78.8%	77.4%
ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある。	92.9%	94.8%	96.0%	94.8%
将来の夢を持っている。	83.0%	83.1%	83.9%	85.9%
学校のきまりを守っている。	81.9%	91.8%	92.5%	92.6%
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	92.8%	95.9%	95.7%	96.1%
人の役になりたいと思う。	90.3%	93.2%	92.6%	92.5%
人が困っているときには、進んで助ける。	71.5%	85.7%	86.1%	85.3%

【中学校】

質問項目	H21	H28	H29	全国
自分にはよいところがあると思う。	55.9%	69.1%	70.4%	70.7%
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。	56.9%	69.4%	71.7%	71.0%
ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある。	91.2%	94.5%	94.8%	94.7%
将来の夢を持っている。	68.4%	67.8%	68.4%	70.5%
学校のきまりを守っている。	83.9%	93.0%	93.9%	95.2%
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	86.0%	91.6%	91.5%	92.8%
人の役になりたいと思う。	87.4%	90.9%	90.9%	91.9%
人が困っているときには、進んで助ける。	65.2%	83.4%	84.9%	84.4%

挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等のこれらの質問項目について全国と比較するとほぼ同程度である。

平成21年度と比較すると、「自分にはよいところがある」と回答した児童生徒は、小学校は9.4ポイント、中学校は14.5ポイント、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」では、小学校は9.3ポイント、中学校は14.8ポイント高くなった。また「人が困っている時には、進んで助ける」についても小学校は14.6ポイント、中学校は19.7ポイント高くなった。

これらの項目については、平成21年度以降、増加傾向にある。学校生活全般を通して、目標に向けて粘り強く取り組むことや、自分のよさを見つけたり、達成感を味わったりする取組が継続的に行われていることがうかがえる。

しかし「将来の夢をもっている」と回答した児童生徒は全国との比較でも、経年の比較でも大きな変化はなく、小学校で83.9%、中学校で68.4%に留まっている。

今後も協働的に活動することや責任感をもって役割を果たし、達成感を味わうなどの取組を通して、さらに自分のよさを自覚し、児童生徒が将来の夢などについても前向きに考えることができるようにつなげていくことが大切である。

《学習時間等》

【小学校】

質問項目	H21	H28	H29	全国
家で、学校の授業の予習をしている。	31.0%	37.6%	33.8%	41.0%
家で、学校の授業の復習をしている。	31.9%	42.0%	39.5%	53.8%
家で、学校の宿題をしている。	93.4%	96.7%	96.3%	96.9%
家で、自分で計画を立てて勉強している。	54.4%	59.5%	62.6%	64.5%
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たり1時間以上勉強をする。	57.0%	59.0%	61.2%	64.4%
学校が休みの日に、1日当たり1時間以上勉強をする。	48.3%	53.9%	54.5%	57.3%
学習塾で勉強をしている。	60.6%	60.8%	60.8%	45.8%

【中学校】

質問項目	H21	H28	H29	全国
家で、学校の授業の予習をしている。	25.6%	34.3%	33.5%	31.7%
家で、学校の授業の復習をしている。	29.7%	40.3%	42.7%	50.5%
家で、学校の宿題をしている。	76.0%	84.5%	81.1%	89.5%
家で、自分で計画を立てて勉強している。	36.1%	46.5%	50.3%	51.5%
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たり1時間以上勉強をする。	63.7%	68.9%	71.1%	69.6%
学校が休みの日に、1日当たり1時間以上勉強をする。	51.9%	61.9%	64.4%	69.4%
学習塾で勉強をしている。	70.0%	74.2%	75.3%	61.4%

「家で、学校の授業の復習をしている」と回答した児童生徒は、全国と比較すると、小学校は14.3ポイント、中学校は7.8ポイント下回っている。「家で学校の宿題をしている」と回答した児童生徒は、小学校では同程度であるが、中学校で8.4ポイント下回っている。また「学習塾で勉強している」と回答した児童生徒は、小学校は15.0ポイント、中学校は13.9ポイント上回っている。

平成21年度と比較すると「家で、自分で計画を立てて勉強している」と回答した児童生徒は、小学校は8.2ポイント、中学校は14.2ポイント高くなった。

小中学校ともに「学校の授業時間以外に1時間以上勉強している」では、全国とほぼ同程度であるが、学習塾で勉強する傾向が全国と比べて高く、家で宿題以外の学習の習慣に課題がある。家庭でも自分で学習の計画を立て、目標をもって取り組めるよう、家庭学習の一層の充実が必要である。

《主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導改善に関する取組状況等》

【小学校】

質問項目	H21	H28	H29	全国
学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思う。	59.9%	48.6%	47.4%	53.7%
400字詰め原稿用紙 2～3 枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思う。	63.4%	52.7%	52.3%	59.5%
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。	—	69.6%	70.9%	68.2%
★友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えをもつことができる。	—	—	89.6%	85.5%
★授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かしている。	—	—	83.6%	82.8%
5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う。	—	68.4%	70.9%	64.9%

【中学校】

質問項目	H21	H28	H29	全国
学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思う。	71.7%	58.1%	57.7%	62.8%
400字詰め原稿用紙 2～3 枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思う。	70.4%	61.4%	58.8%	62.5%
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。	—	66.9%	68.5%	64.8%
★友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えをもつことができる。	—	—	91.2%	88.4%
★授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かしている。	—	—	71.3%	70.9%
1, 2年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う。	—	62.0%	64.8%	57.9%

★新規項目

「授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい」と回答した児童生徒は、全国と比較すると、小学校は6.3ポイント、中学校は5.1ポイント下回っている。

平成21年度と比較すると、同じ質問項目では、小学校は12.5ポイント、中学校は14.0ポイント下がっており、難しいと思う児童生徒が平成21年以降減少している。

また、新規項目の「友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えをもつことができる」については、小中学校ともに全国と比べるとほぼ同程度であるが、中学校では9割を超えている。

各教科等で話し合ったり、文章に書いて発表したりする機会が増え、言語活動の充実が図られていることがうかがえる。さらに今後は対話的な活動から多様な考えを受け止め、自分の考えをもったり、広げたりしていくことや、授業で学んだことを生活に生かそうとする態度を育成できるよう、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が重要である。

《学校生活等》

【小学校】

質問項目	H26	H28	H29	全国
学校に行くのは楽しいと思う。	88.8%	87.4%	87.7%	86.3%
学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。	87.3%	86.0%	87.8%	87.8%
学級会などの話し合い活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめていますか。	—	59.5%	53.3%	50.3%

【中学校】

質問項目	H26	H28	H29	全国
学校に行くのは楽しいと思う。	81.9%	81.6%	81.1%	80.9%
学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。	84.2%	82.2%	84.3%	86.0%
学級会などの話し合い活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめていますか。	—	61.7%	43.1%	40.5%

「学校に行くのは楽しいと思う」「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」と回答した児童生徒の割合は、全国と比較するとほぼ同程度であるが、小中学校ともに8割を超えている。今後とも、学校では、児童生徒がやり遂げた喜びを感じられる教育活動を進めるとともに、教師が児童生徒のよさを具体的に認め、評価していくことが重要である。

また、「折り合いをつけて話し合い、意見をまとめる」については、全国の平均を上回ってはいるが、小学校は53.3%、中学校は43.1%であり、課題がある。意見をまとめる際に多数決に頼ることなく、自分とは異なる意見や少数意見を生かし、折り合いをつけて合意形成する話し合い活動を通して、多様な他者を理解する気持ちを育み、望ましい人間関係を形成することが必要である。

また、学級内で児童生徒同士が協力をし合ったり、話し合ったりする活動を継続することで、所属感や連帯感が生まれ、「自分たちの学級は自分たちでつくる」という社会参画の態度の育成につながる。

折り合いをつけて話し合い、意見をまとめる活動は、「キャリア在り方生き方教育」の「自分をつくる」「みんな一緒に生きている」の視点としても大切であり、今後も経年での変化に注視していきたい。

〈保護者に対する調査関連〉

【小学校】

質問項目	H21	H28	H29	全国
家の人と学校での出来事について話をする。	68.5%	79.3%	78.1%	78.1%
●家の方は授業参観や運動会などの学校の行事に来ている。	—	—	95.6%	96.1%

【中学校】

質問項目	H21	H28	H29	全国
家の人と学校での出来事について話をする。	56.7%	71.8%	70.8%	74.3%
●家の方は授業参観や運動会などの学校の行事に来ている。	—	—	85.6%	84.1%

●復活項目

「家の人と学校での出来事について話をする」と回答した児童生徒の割合は、全国と比較すると、小学校はほぼ同程度である。平成21年度と比較すると、小学校9.6ポイント、中学校は14.1ポイント高くなった。

「家の方は、授業参観や運動会などの学校の行事に来ている」と回答した児童生徒の割合は、小学校で9割、中学校で8割を超えている。各学校では、地域に開かれた学校づくりを推進していることがうかがえる。このことから、保護者も積極的に学校行事等に参加して、学校の出来事を家庭で話題にしている様子が見られる。今後とも、学校と保護者、地域が行事等の情報を共有し、一緒に学校や地域づくりを進めることが、大切であると考えている。

〈基本的生活習慣〉

【小学校】

質問項目	H21	H28	H29	全国
朝食を毎日食べている。	95.1%	95.0%	94.5%	95.4%
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	70.2%	79.1%	78.6%	79.8%
毎日、同じくらいの時刻に起きている。	87.1%	89.8%	89.5%	91.2%
普段(月～金曜日)、1日当たり2時間以上テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式ゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む)をする。	29.9%	28.8%	31.2%	31.1%

【中学校】

質問項目	H21	H28	H29	全国
朝食を毎日食べている。	89.9%	90.4%	90.8%	93.2%
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	64.8%	72.6%	73.4%	75.6%
毎日、同じくらいの時刻に起きている。	88.6%	90.6%	91.2%	92.4%
普段(月～金曜日)、1日当たり2時間以上テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式ゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む)をする。	25.4%	39.5%	41.4%	37.6%

基本的生活習慣のこれらの質問項目について全国と比較すると、小中学校ともにほぼ同程度である。「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と回答した児童生徒は、平成21年度と比較すると、小学校は8.4ポイント、中学校は8.6ポイント高くなっている。

また、「普段(月～金曜日)、1日当たり2時間以上テレビゲームをする」と回答した児童生徒の割合は、平成21年度と比較すると、中学校は16.0ポイント高くなっている。

このことから、児童生徒の携帯電話やスマートフォン等の社会的背景の変化が影響していると考えられる。基本的な生活習慣の側面からも、携帯電話やスマートフォンの使用時間、使用方法など

について、各家庭で約束事を決めるなど、学校から家庭への働きかけが必要である。

《地域や社会、外国に対する興味・関心》

【小学校】

質問項目	H21	H28	H29	全国
今住んでいる地域の行事に参加している。	45.8%	55.3%	47.4%	62.6%
地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。	63.2%	70.2%	64.4%	63.9%
●外国の人と友達になったり、外国のことについてももっと知りたいしてみたい。	—	—	72.2%	70.4%
●将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いたりしてみたい。	—	—	37.5%	33.6%

【中学校】

質問項目	H21	H28	H29	全国
今住んでいる地域の行事に参加している。	27.9%	35.0%	31.9%	42.1%
地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。	52.3%	62.3%	56.2%	59.2%
●外国の人と友達になったり、外国のことについてももっと知りたいしてみたい。	—	—	65.3%	64.3%
●将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いたりしてみたい。	—	—	37.4%	32.9%

●復活項目

「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童生徒は、全国と比較すると、小学校は15.2ポイント、中学校は10.2ポイント下回っている。平成28年度と比較しても、小学校は7.9ポイント下回っている。

また、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」と回答した児童生徒の割合は、6割前後であり、平成28年度と比べると、小学校は5.8ポイント、中学校は6.1ポイント下回っている。平成21年からの比較でも大きな変化はなく、いまだ課題があると捉えている。今後も、地域と連携した学校づくりを通して、児童生徒が地域や社会での出来事に関心を持ち、主体的に関わっていこうとする態度を育てることが必要である。

また、2つの外国に対する興味・関心の質問項目（復活）は、小中学校ともに全国と比較すると同程度である。「外国の人と友達になったり、外国のことについてももっと知りたいしてみたい」と回答した児童生徒は、小学校は72.2%、中学校は65.3%と外国への興味・関心はあるものの、「将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いたりしてみたい」と回答した児童生徒は、小学校37.5%、中学校では37.4%に留まっている。

外国語活動・外国語の授業において、児童生徒がALTを始めとする身近な外国人と交流する機会を増やし、異文化に対する興味・関心を高めていったり、生活科や総合的な学習の時間等の取組の中で様々な文化に触れたりする機会をもつことが大切である。